

# に根ざしたシンクタンク

同年10月には「軍教(軍事教練)反対事件」が起っています。教練時に配布された演習想定文の文言をきっかけに、学生(有志)と学校の対立的状況がもたらされました。この運動は、当時増加しつつあった学生運動との関連から全国的な注目を集めるに至りました。

学内教育の面では、京都大学に続いて、ゼミナール制を1931年に開始しました。翌年には指導教官制が設けられ、今日に至る小集団教育の基礎が作られました。

本学は順調な発展を遂げ、1936年には開校25周年記念を迎えました。そして10月には、昭和天皇の来校を受けました。本学大学会館の山側出口付近にある「聖徳無邊」の碑は、これを記念して立てられたものです。

本学では、「国際社会で活躍・寄与する経済人養成を校是とし」、商業実務教育と併せて、語学教育にも力を入れてきました。専任の外国人教官が、開校3年目より着任し、その充実振りは「北の外語大」と呼ばれるほどでした。1935年には、所属教官42人中7名を外国人教官が占めていました。戦前には計36名の外国人教官が教壇に立っておられましたが、中でも「ロバ先生」の愛称で親しまれたマッキノン先生(在職25年)、外国語劇に力を注いだスミルニ

ッキー先生(同23年)は、小樽市民からも大変親しまれたそうです。

## 第3期 大学への改組

1946年9月の緑丘会総会で満場一致で可決された小樽高商の昇格案は、地元小樽の圧倒的な支持を得て、1948年全国唯一の単科大学として発足の決定を受けました。1949年に新制大学としての発足後も、夜間部の併設・「緑丘講座」の開設などを行い、校友と地元から強い支持を受け続けました。

## 第4期 学園紛争の頃

1953年頃から本学でも学生運動がみられるようになりました。本学では1965年頃から寮問題をめぐる大学と寮生が対立から、学生運動が激しくなり、管理棟が封鎖されるなどしました。しかし、他大学のような徹底的な対立は見られず、大学当局・職員・学生は、運動が激化する中も交流を持ち続けていました。これは、本学における学生運動の特殊性といえます。

## 第5期 21世紀を迎えて～国際化

本学では国際交流が盛んで、毎年多くの留学生を送りだし、同様に多くの留学生を受け入れています。昨年秋に



は、外国人留学生の在籍者が100名を超えました。また、2000年には地域連携の拠点としてビジネス創造センター(CBC)が設置され、学外との交流を深めています。新世紀においても更なる発展を目指し、様々な活動を行ってゆきたいと考えています。

以上のように、本学は創設以来地元・校友と強い結び付きを持ちながら発展してきました。今号では、本学のあゆみについて、小樽高商時代(第1期・第2期)を中心に振り返りました。

次号では新制大学としてのあゆみ(第3期・第4期・第5期)を詳しくたどりま

1946(S21)年 9月 緑丘会総会で大学昇格 決議  
10月 小樽市議会で大学昇格 決議  
小樽経専昇格・小樽商科大学設置市民大会  
1947(S22)年 4月 男女共学化女子学生(3名)入学  
10月 本学の単独昇格内定  
1949(S24)年 5月 小樽商科大学 設置 7月 開学式  
1950(S25)年 6月 朝鮮戦争 はじまる  
11月 第1回大学祭(現「緑丘祭」)  
1951(S26)年 サンフランシスコ講和条約 締結  
1952(S27)年 3月 短期大学部 併設 1996年 廃止  
1953(S28)年 商業教員養成課程 設置  
1958(S33)年 「緑丘講座」発足  
1964(S39)年 10月 東京オリンピック  
11月 計算機センター 設置

1969(S44)年 (学園紛争の激化)  
4月 入学式中止 5月 管理棟封鎖  
7月 アポロ11号月面着陸  
8月 緑丘戦没者慰霊塔 建立  
1971(S46)年 大学院修士課程 設置  
1981(S56)年 12月 旧校舎の解体(創立以来の建物が全てなくなる)  
1989(H1)年 ベルリンの壁崩壊  
1991(H3)年 10月 現在の4学科に改組 言語センター 設置  
1997(H9)年 2月 国際交流センター 設置  
5月 札幌サテライト 開設  
1998(H10)年 7月 札幌サテライト、スペースを拡充  
1998(H10)年 10月 シンボルマーク 制定  
2000(H12)年 4月 ビジネス創造センター 設置